源氏外伝

五
終

源氏外伝考こゝ五

澪標

見神のゆいなきと家と光君と霊妙なる
ことゝ人々さまざまに世のうわさ
なき事なれ
ばふかくかくれなくの
ちの紀ふあんとなる所の物語
なるなれ
ば世にもかくれなきまで
はやされたるなるべし

文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

無[illegible]のみを　[illegible]

[illegible]ハ[illegible]氏うちひのね　無[illegible]つまい　[illegible]のさ

[illegible]うちのひくさうれのうちし　[illegible]

[illegible]氏[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]氏の[illegible]

[illegible]

[illegible]氏のうち[illegible]

無[illegible]のうち心うつき　人[illegible]れを　又[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おやの侍　新[illegible]

まはの枕のもとにいとうつくしうなりたるを
しのびてうつくしうのたまふ　やうのなりしの人とも交
れふるのふの人の言葉ゆゑふなりなるを　中く
信とも分とも言はぬきんと言ひてきるぬを
ひとりとうるすなりけるのわてうるを
四の枕のうちにかくるふやうとうるふるの
夜のれふるの書ふかれうとうるをーるぬるを
いうて
○ひとりふるうるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一方ことゝなりぬる
まことのさとりをひらき一人をのがれて道理に
ゆきたる人なりしかるに天下四海の主となん
是法を広ゆるゆへにそのひさしきこと
たとへつきせぬゆへにそのひさしきこと
例ふるにまことにたとへ大海を
渡るに舟にあらずして幸にあるまれ
なる流れをわたるものもなかるべし
人なり

とゝいのまくの
ちかひはあまねくこれをきくものに
ひとしくこれをえしめたまへり
ひとしくこれをえしめたまへるゆへに
ひとしくこれをきくものに
ひとしくこれをえしめたまへるゆへに
ひとしくこれをえしめたまへるゆへに
文字の義にて一致也

和讃

ちかひのわらをあらそ
ひてこゝのかの信ぶつをえたる人の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入道ゝ二方都の地へ入ぬるゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるゝ[illegible]なるゝ[illegible]あくゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉鬘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女性のうらくしれたるはかりふかきを人たれか
いまやうとのみそしりあさけりて性
なるものなるへし歴史なりとはいへとも
らもるをさため女をもつてのつ[illegible]
をたれかはかりしれるのみなりをと
きりしたるひとり三史の侍を人をもるを刺め
うきをとをもつて人伝する妻をそしきをと
りたるをもつてあるをもつて女の上の
妻はつてはりうをもつてはりうをもつて一えの徳を

皆女性いまをもつてふあり女の人重のきりた
嫉妬をもつてはりうをもつてはりうをもつて女を
をるこのをもつて女のをもつてふ信をもるをとをもつて
をもつて信氏の仁をもつて性を信をの性を
をもつて信をとをもつてしをもつる業をも業ふいふれ
上をもつてをもつて女をもつて一婦をのをいをら
をるものをとをもつてをもつて

壹度

男女ともこのかの一つを家風の極意と家風いろの
酒をかくしまよれたるはるかのはるかまれはるかの之
すけたる身をもちなるのこころをはるこ一

羅火

羅火の市めきいしられたるまるるや
ようなるなるまれくるはあるはるの
但和歌の道を云ふるは俳諧ばかりをいふ
なるとよりまた わが国撰集はるの外よりの

はるかきまるなり

鶴千

世のはるかの月日
はるのはるかをかくとそれ和歌乃ふるれやふ
はるかをかくて春のはるかのはるかるる月芝人の
はるかをかくの野はふるふるふ鶴千

竹年

氏物語の中にも源氏の
物語とかいてあり世上にも通用する
人皆ちりぬるを中国にも漢の世始皇帝
中興の世に源氏の物語をしるしたる
武家の世となり藤原氏は源氏と称し
の源氏のめくられ　ちりぬるを何ぞ
すなわちしらや義家の名　あくいの名をなれら
源氏の名　上古の風のうつり　対面を
こそ例

たてうらふもうしより
四方の海賊とのうち　一度に捕られ
うれに時をうち時のうちにあり兵庫といふの
海賊のまたれかふそいにいたりて海賊はらをもと
人のいしふれうちの　おとうのうちに
うまり時をとくあるに四方をもとの海を
ふれをうちいめくうちにのりうまれ彩をを
あくゆうまるをまるをのをいなり
氏をとひさうしまるを氏物語の中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なかるゝなみだぬるとの玉ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

三月廿日

いくとしかはるとの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

てらすほうせきの

あれば

信濃なる

陽信の人をかたらひもろくしくまを

なりいかもかたてをれとよりぬり塗

とをとりとものと三位の人をまやのあるまひを

なりとうちをいれまるの物をの

つるふかるつきんを

人のあらふあふをつるをは人の原

よをまいとうをたをまはをまるをつるをを人

るををををををの物

るをるるをの物

有義系

何こをあるををを

はををををの原義をのををををを

ををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のうりかた

このまゝにもしまうしたる人のすゝめをかりれ
まゝにふいとうしたいこの屋ひとりぐらしをはなれ
さ地せくゝ安堂よりかへりかへりに寄ふ
なりきこれをひとりにて人をたのみ一生をさり
りんきとまゝにまゝないけれども田舎にて一向
まゝ人まゝにまゝ一度野にたゝまれ
なるのあとにみるふちにさゝてきれいきみたる
なりこの家の家ねは雙屋いすまきぬ

○よろこのかりきしゆゝ来
たゝかれ秋のあふとにしるこのたゝまの代
たゝきなくなるとのを女中の婦りぬなる
さゝ いきめゝ子の上ふなるのなれま
ぬゆなるよのたゝふのあをの陰のあを
とのをゝをおゝしゝおゝす陽ゝ花
なりたゝをゝのいゝ所のはゝまゝひ
なやゝゝうれゝたゝなきけゝ
飛ふゝて山ゝゝうゝ人をあゝしま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の人の入り[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の世にうとくなりぬるを上手のなすべき業なりとぞ

なほ学問にこころをかけよ

源氏外傳 五巻 終